



未来社会ショーケース事業「フューチャーライフ万博」概要資料

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

未来社会ショーケース事業

未来社会ショーケース事業は、2025年より先の未来を感じさせる次世代技術・社会システムの実証と、2025年の万博にふさわしい先端技術・社会システムの実装の二つのレイヤーを念頭に実施を検討しています。

スマート モビリティ万博	・ 会場アクセスバス ・ 会場内・外周トラム ・ 会場内パーソナルモビリティ ・ ロボット（物流、清掃） ・ 空飛ぶクルマ 等	アート万博	・ ウォーターワールドスペクトルショー ・ 大屋根（リング）プロジェクションマッピング ・ 静けさの森インスタレーション ・ パブリックアート ・ パレード&ストリートパフォーマンス 等
デジタル万博	・ 来場者エージェント、XR案内 ・ 自動翻訳システム ・ 高速大容量通信環境 ・ 大型映像、サイネージ 等	グリーン万博	・ DAC+CCS、メタネーションガス ・ 水素発電、純水素型燃料電池 ・ アンモニア発電 ・ CO2吸収路面素材 ・ 次世代太陽電池 ・ 帯水層蓄熱 等
バーチャル万博	・ バーチャル会場 ・ XR演出 ・ サイバー万博（仮称） 等	フューチャー ライフ万博 フューチャーライフパークを 拠点に、様々なアイデアを 実装するインキュベーション 型事業	・ 未来の都市、住宅、環境、交通、文化 (フューチャーライフパーク) ・ 未来のヘルスケア (健康医療等データ利活用、医療機器・福祉用具 等) ・ 未来の食 (フードテック、自動化、食文化 等) ・ 未来への行動 (TEAM EXPO 2025ベストプラクティス展示)

※ 現時点のものであり、今後変更することがあります。

大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマのもと、万博会場を「未来社会の実験場」と見立て、運営や会場建設などにさまざまな未来提案型事業を取り入れることを目指しています。これらの取り組みは「未来社会ショーケース事業」と位置づけ、パビリオン出展やテーマ事業協賛と並ぶ参加メニューとして、企業等の参加を呼びかけています。御社には、この未来社会ショーケース事業に以下の内容でご参加いただくことをご提案します。

リアルとバーチャルが融合したよりよい社会を大阪・関西万博で

- デジタル空間とリアル空間の双方の実績と知見を活用し、それらの間を相互に連携させイノベーションの実現をめざす貴社の取り組みを、万博で行う未来社会ショーケース事業に参加いただき広く世界へご発信ください。
- 貴社の構想・技術をベースに、博覧会協会及び様々なパートナー企業との協創を推進し、導かれた未来社会像をリアル会場/バーチャル空間に描き出し、Society5.0の具現化に向けた実証の機会、世界への発信の場として大阪・関西万博を活用ください。

具体的取り組み①：

未来の街「フューチャーライフパーク」を会場内に創出

貴社及びグループ会社が有する事業構想や新技術など、Society5.0に向けた未来の暮らしが体感できるエリア「フューチャーライフパーク」を会場内のグリーンワールドに創出。

具体的取り組み②：

リアル会場とバーチャル空間のデジタルツイン体験

リアル会場の「フューチャーライフパーク」とバーチャル空間を重畳し、相互に連携しながら新たな価値を提供するデジタルツイン体験を創出。さらに、バーチャル空間では、リアル会場にはないSociety5.0が実現された仮想未来都市を構築。

具体的取り組み③：

多彩な「問い」と「解」が集まる共創の集積場

いのち輝く未来社会の実現に向けた「問い」に対する「解」を、例えば食・健康・教育・文化・芸術といった様々な分野の展示や、会期前からの未来に向けた活動である「TEAM EXPO 2025」プログラムのベストプラクティスにより提示。本エリア全体を、様々なクリエイターや事業者、来場者など多様な共創によりともに未来空間を創り上げていく。

フューチャーライフパークで、多様な企業との共創のもと、御社の考えるSociety5.0が実現された未来社会を発信ください
(事業計画策定、設計等は、協会が各協賛社と調整しながら行います)

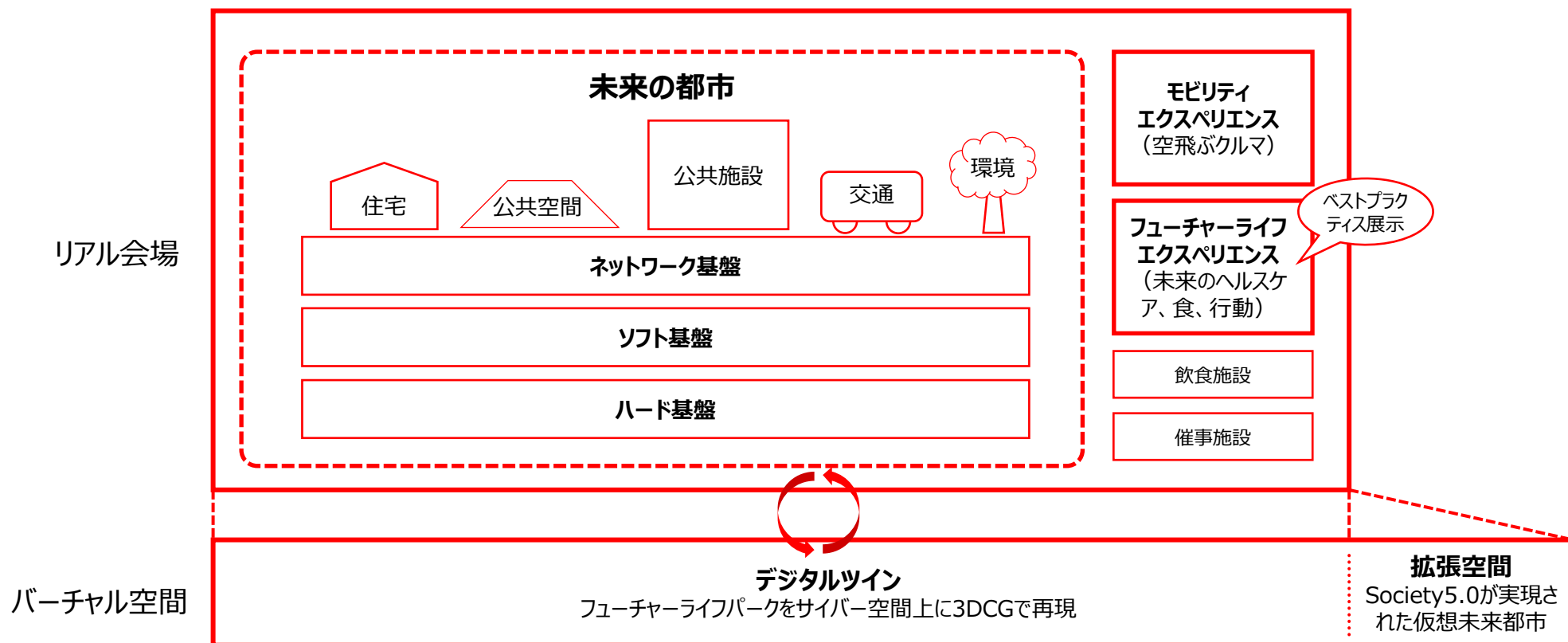
(想定パートナー企業：住宅メーカー・インフラ企業 等)

(想定パートナー企業：ICT関連企業 等)

(想定パートナー企業：ベンチャー企業 等)

瀬戸内海を望む景観に優れたエリアを未来の街としてデザインし、未来に向けた「問い」と「提案（さまざまな視点からのベストプラクティス）」が集まる場所として構成。大阪・関西万博のコンセプトである「People's Living Lab（未来社会の実験場）」を具現化するために、リアル会場とバーチャル空間の2つを結びつけながらSociety5.0の姿を描き出す。

＜フューチャーライフパークエリア構築イメージ＞ エリアコンセプト “「いのち輝く未来社会」の実験場”



万博会場はパビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールドの3つのエリアで構成されており、フューチャーライフパークはグリーンワールド内の瀬戸内海を望む景観に優れたエリアに位置する。



グリーンワールド

- ・会場の西側の海に面した緑地エリア。
- ・屋外イベント広場や交通ターミナル、エントランス広場等、大人数が滞留することのできる開けた空間。

パビリオンワールド

- ・パビリオン等の施設が集まるエリア。
- ・メインストリートの上部に大屋根（リング）を設置。

ウォーターワールド

- ・水景を活用した憩いのエリア。水辺に面して飲食施設を配置するとともに、水上イベントの舞台としても活用。

■未来の都市

建築、土木、通信、物流、エネルギー、交通等が、先進技術によって融合された未来の都市を体験できるエリア
（面積約1ha）

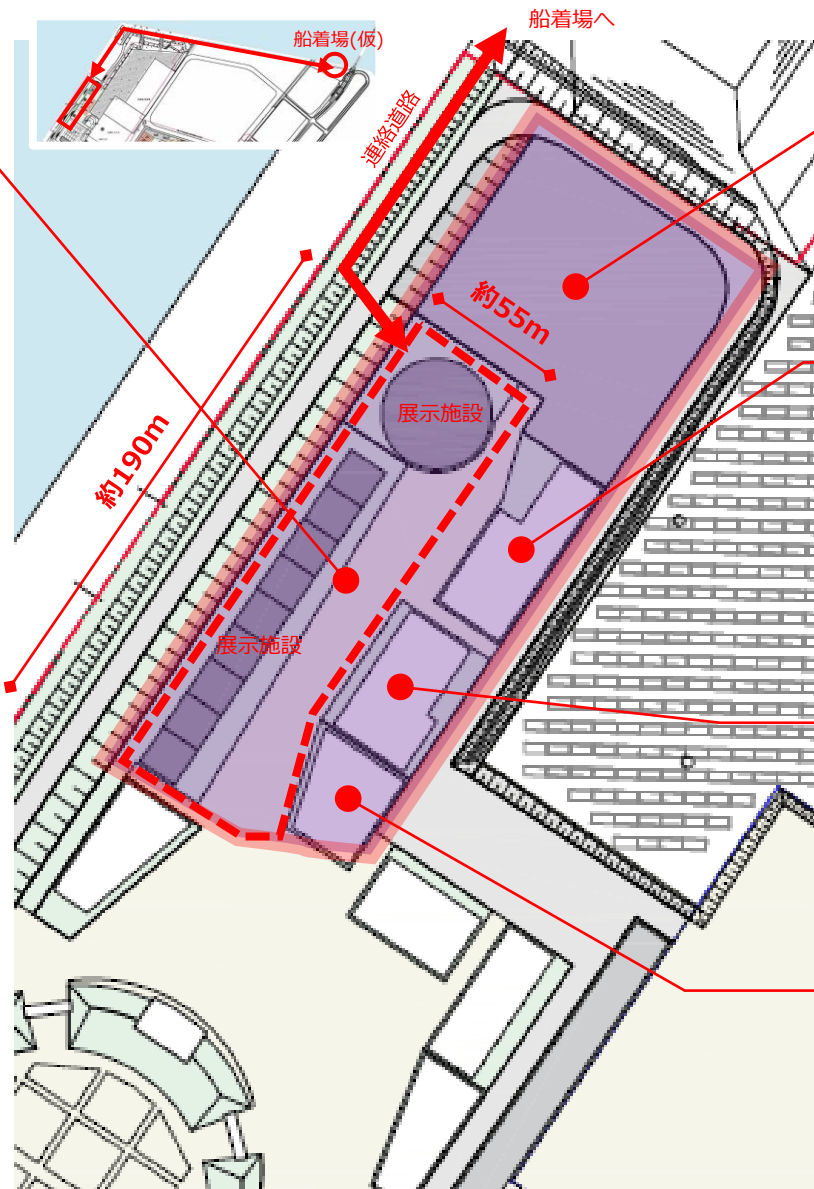
[主な施設]

- ・ 屋外空間（歩道、道路、広場等）
- ・ 環境演出（街路樹、水景、照明等）
- ・ 建築物（住宅、商業等）
- ・ 連絡道路（船着場～会場）
- ・ 展示施設（プレゼンテーション展示）

[実施する技術例]

- ・ IoTスマートセンサー
- ・ オンデマンドバス
- ・ スマート街路灯
- ・ EMS
- ・ MaaS、自動運転、カーシェア
- ・ 都市OS
- ・ ロボット・ドローン配送
- ・ 植物工場
- ・ HEMS、BEMS
- ・ 蓄電SCADA
- ・ データ関係基盤

※施設や技術は例であり、今後変更となる場合があります



■モビリティ・エクスペリエンス

空飛ぶクルマの搭乗体験ができるエリア。離発着場、管制、整備格納施設、及び実機の展示施設を設置

■フューチャーライフ・エクスペリエンス

未来のヘルスケア、未来の食、未来への行動が体験できるエリア。展示施設、ワークショップ、小ステージを設置
展示施設内において万博の共創事業「TEAM EXPO 2025」等から選定されたベストプラクティスの展示を実施

■ギャラリー（催事施設）

現代アートやポップカルチャー等の展示を会期中入れ替えで実施。万博の催事施設として設置

■飲食施設（営業施設）

フードコートスタイルのレストラン。万博の営業出店施設として設置

出展者に行っていただきたい事業

モビリティ・エクスペリエンス

国の支援を得て、出展企業(機体メーカー、運行会社、発着場管理会社等)が、施設整備及び会期中の運営を実施

未来の都市

協会と本事業の中核となる出展企業が連携して作成する実施計画に基づき、以下の施設の整備、展示、運営を出展企業が実施

- ・ 屋外環境の整備
- ・ 環境演出施設の整備
- ・ 住宅、商業等の建築物の整備
- ・ 展示施設の建設、展示空間の整備
- ・ 連絡道路の整備（車両、自動運転設備は別途）
- ・ 未来の都市に実装する各種先進技術、システム、サービス

バーチャル空間

協会と本事業の中核となる出展企業（通信会社等）が連携して作成する実施計画に基づき、出展企業がシステム構築、コンテンツ開発、運営を実施

協会が行う事業

事業全体の調整

多岐に渡る出展者の連携をはかり、実施計画の策定など、協会が事業全体の調整を実施します

フューチャーライフ・エクスペリエンス

協会が施設の整備を行い、国や企業（ヘルスケア、食関連等）が展示、運営を実施。広場とステージでは、本事業に参加する企業・団体等によるワークショップやトークイベントを実施

ベストプラクティス展示

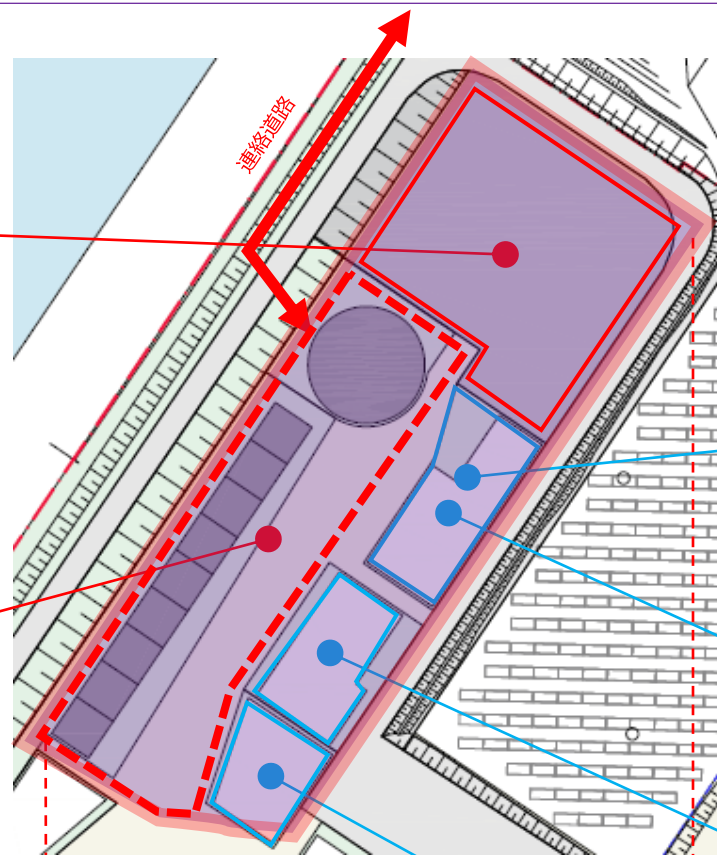
協会がベストプラクティスの選考を行い、採択された団体が展示、運営を実施。会期中入れ替えを予定

ギャラリー（催事施設）

協会が施設の整備を行い、催事の実施者が、展示、運営を実施。1～2週間ごとに入れ替えを行う予定

飲食施設（営業出店施設）

協会が施設の整備を行い、公募により採択された営業施設出展者が、店舗の内装、厨房設備、運営を実施



バーチャル空間

拡張空間

(Society5.0が実現された仮想未来都市)

バーチャルフューチャーライフパーク
(リアル会場とのデジタルツイン)



フューチャーライフパークエリア

「未来の都市」

事業イメージ

建築、土木、通信、物流、エネルギー、交通等が、
先進技術によって融合された未来の都市を体験できるエリア
(面積約1ha)

〈「未来の都市」ゾーンの位置づけと意義〉

フューチャーライフパークの「未来の都市」ゾーンは、

Society5.0が目指す未来の都市の姿を浮かび上がらせる舞台となる。

Society5.0が目指す
未 来 の 都 市

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより
経済発展と社会課題の解決を両立する人間を中心とした都市である

サイバーフィールドとフィジカルフィールドが相互に連携し融合した展示 とし、
来場者や参加者に様々な問いを投げかけながら、未来の都市像を共に考え、描いていくことを目指している。

企業・組織や業界の垣根を超えて、様々な知見やアイデアを掛け合わせて生まれた、
未来の都市につながるデジタルイノベーションや新たな価値を実証する機会として
万博の場を活用していただくことを想定しています。

- Society5.0が目指す未来の都市の一つの姿が、新技術や各種データ活用をまちづくりに取り入れたスマートシティの推進である。

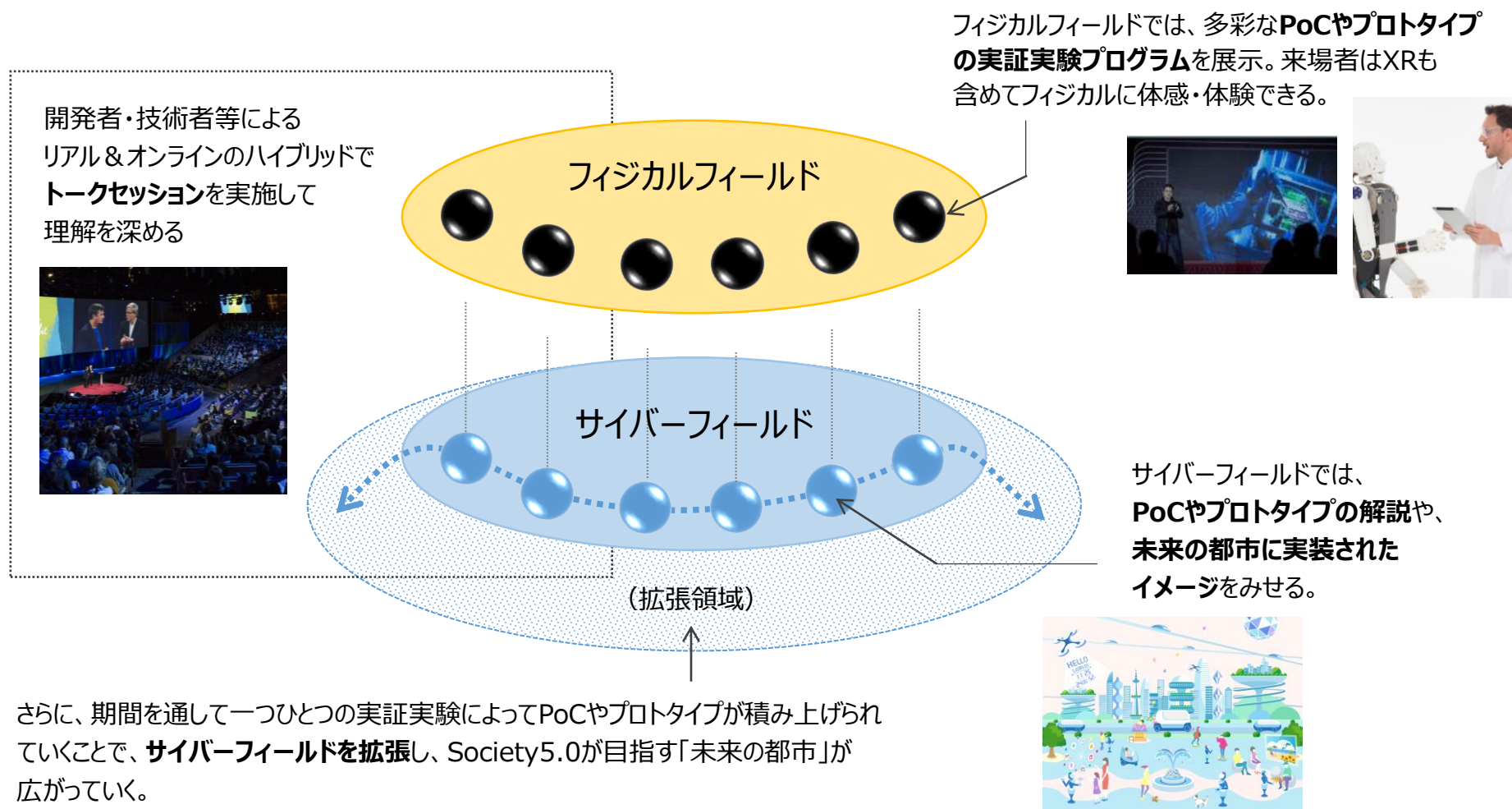
新技術や官民各種のデータを活用した、
市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、
各種分野におけるマネジメントの高度化等により、
都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、
また新たな価値を創出し続ける
持続可能な都市や地域を創り出す

※内閣府他スマートシティ官民連携プラットフォーム「スマートシティガイドブック」をもとに作成



実証実験コンプレックス ～万博をPoCやプロトタイプの実証実験フィールドに～

様々な企業・組織との“協創”によって生まれた、都市を構成する/支える各テーマ領域におけるイノベーションを集め、本万博をフィールドにした「未来の都市」のPoCやプロトタイプの実証実験コンプレックスを創出し発信していく。



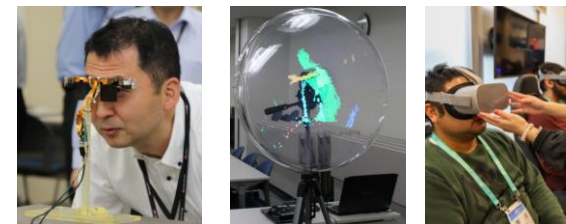
都市を構成する/支えるテーマ領域において、実証実験段階にある様々なイノベーションを万博で展示紹介。
実機に近い形のものを実際に来場者に体感・体験いただき、サイバーフィールドでの体験と合わせて、
未来の都市を実感してもらえらるものとしたいと考えます。



● 短期間に入れ替えることで、最新のプロトタイプを展示できる

- ・ 1週間～1ヵ月単位で展示を入れ替えることを前提に、多彩な実証実験を実施する（橋や道路など大型のものは通期での設置も可能）。

短期間だからこそ、研究室からそのままプロトタイプを持ち込んで動かしてみせることも可能になる。

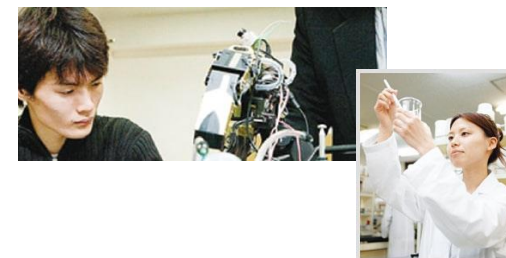


● 様々な企業や大学・組織による協創型の事業スキームで展開

- ・ 様々な企業や大学・組織との協創によるプロジェクトを万博の場で展開していただく。企業間連携や、事業活動における協創の枠組みや大学連携によるラボなどの活動も想定される。

● 開発者や技術者自らが解説するからこそそのリアリティを大切にする

- ・ 開発されたばかりのプロトタイプを説明するのは、これに携わった開発者や技術者とする。アテンダントによる流暢な解説ではなく、開発者たちが自分の言葉で率直に語ることで、来場者に、その思いや価値をリアルに伝えることができる。
- ・ 開発者たちにとっても、来場者とコミュニケーションしながら反応をじかに感じることで次のステップに活かすことができる。



● 最新のPoCやプロトタイプの実証実験の成果をもとに、ビジネス交流や商談機会につなげる場に

- ・ パビリオン出展等とは異なり、展示物を入れ替えていくことを前提にすることから、進行中のプロジェクトの中から最適なものがあればフレキシブルに差し替えていくことも可能となる。ビジネスホスピタリティも備えることで、最新のPoCやプロトタイプの実証実験の成果をもとに、ターゲットとする海外国とのトップセールスの機会とすることもできる。